

庄内をたすきでつなぐ

認知症啓発の「RUN伴」

をつないだ。

RUN伴はNPO法人認知症フレンドシップクラブ（本部・東京）を母体に、北海道から沖縄まで全国各地で行われている認知症啓発イベント。庄内では昨年有志による実行委員会を組織して初開催し、今回が2回目。

参加者は子どもから来年で数え年100歳を迎えるという人まで幅広く、車椅子での参加者も。RUN伴

を象徴するオレンジカラー

のTシャツに身を包み、沿道オレンジ色に染めた。午後1時すぎ、最終走者が鶴岡市役所でゴールテープを切り、無事にたすきをつなぎ終えた。参加者からは拍手と「また来年も一緒に走ろうね」といった声が掛けられた。

初めて参加したというラシナーの石塚貴渡さん(26)は「鶴岡市は、勤務先の病院で知り、認知症啓発がで

きると思って参加した。参加者と交流することもできて良かった」と感想。今年、実行委員長を務めた小柳朋之さんは「オレンジ色は人目につきやすく、知らない人にも興味を持ってもらえて認知症啓発活動を続けていきたい」と話した。

きると思って参加した。参加者と交流することもできて良かった」と感想。今年、実行委員長を務めた小柳朋之さんは「オレンジ色は人目につきやすく、知らない人にも興味を持ってもらえて認知症啓発活動を続けていきたい」と話した。

認知症になっても安心して暮らせる地域を目指して、認知症当事者と一緒なたすきをつなぐリレーイベント「RUN伴（らんとも）」が31日、庄内地域で繰り広げられた。イベントには認知症当事者や家族、地域住民、支援者など18チーム83人が参加。この日、午前8時に酒田市光ヶ丘陸上競技場を出発し庄内町、三川町、鶴岡市と計28キロに及ぶコースをリレーし、ゴールの鶴岡市役所を目指してたすき



ゴールテープを切り、大きな拍手に包まれた最終走者＝鶴岡市役所